

令和7年度 情報モラル調査結果

岐阜県教育委員会

【 実施概要 】

<調査対象> 岐阜県内公立の小中高等学校及び特別支援学校高等部

小学校 1年～6年 の児童

中学校 1年・2年・3年 の生徒

高等学校 1年・2年・3年 の生徒

特別支援学校 高等部 1年・2年・3年 の生徒

※ 小学校には義務教育学校前期課程の児童を、
中学校には義務教育学校後期課程の生徒を含む

<調査方法> 各学校で、校舎別・課程別・学年別に1クラス以上を抽出し、アンケート調査を実施

<実施期間> 令和7年 11月～12月

<調査数>

※ 「高」は特別支援学校高等部を含む

(令和7年度)

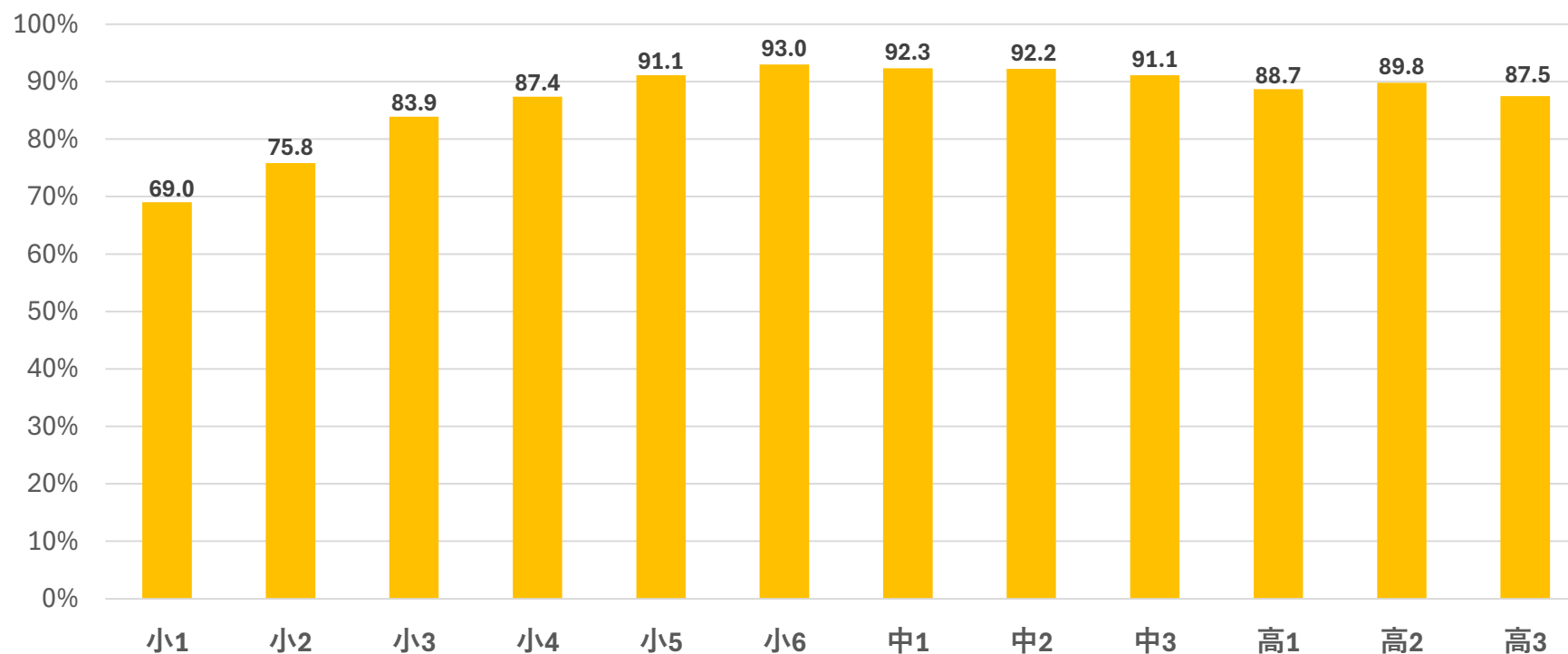
学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	342	342	342	342	342	342	176	176	176	88	88	88	342	176	88	606
人数	7,285	7,296	7,722	8,103	8,527	8,766	6,184	6,057	6,046	3,291	3,447	3,439	47,699	18,287	10,177	76,163

(令和6年度)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	343	343	343	343	343	343	177	177	177	88	88	88	343	177	88	608
人数	7,317	7,354	7,767	7,827	8,046	8,525	6,505	6,240	6,233	4,152	3,926	3,871	46,836	18,978	11,949	77,763

※処理の都合上、回答割合の合計が100%にならない場合があります。

Q1. インターネットに接続ができて、あなたが使える
パソコンやゲーム機などがありますか



校種別経年変化 (%) R5,6はゲーム機所有率

	R7	R6	R5
小学校 (1～3年)	76.4	57.8	60.0
小学校 (4～6年)	90.6	78.5	79.8
中学校	91.9	87.3	87.9
高等学校	88.7		

【傾向】

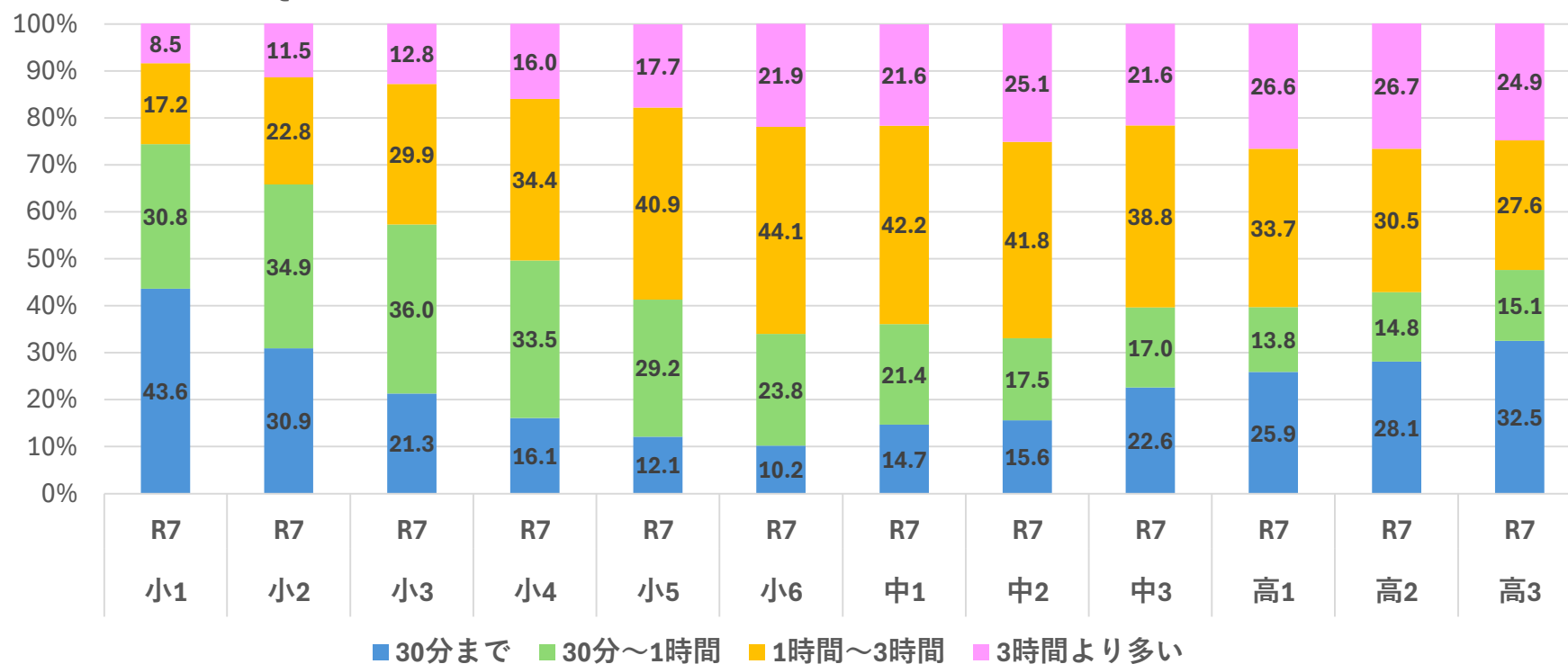
・小学校高学年から高校生の約9割の家庭に子どもが使うことができるインターネット環境がある。

【指導・啓発のポイント】

- セキュリティソフトがインストールされているか確認する。
- 大人がクレジットカード情報等を記憶させた状態で使用しないよう啓発する。
- 小学校低学年においても家庭内の丁寧な見届けをする。

Q2. パソコンやゲーム機などの使用時間は、平日1日あたりどれくらいですか

※Q1でパソコンやゲーム機などが「ある」と答えた児童生徒のみ回答



校種別経年変化（小学校1～3年）（％）

	R7	R6	R5
30分まで	20.5	30.8	33.2
30分～1時間	30.9	33.0	34.7
1時間～3時間	33.1	24.6	21.8
3時間より多い	15.5	11.6	10.3

校種別経年変化（小学校4～6年）（％）

	R7	R6	R5
30分まで	17.6	13.1	14.9
30分～1時間	18.7	30.0	31.5
1時間～3時間	41.0	39.4	37.8
3時間より多い	22.8	17.5	15.8

校種別経年変化（中学校）（％）

	R7	R6	R5
30分まで	17.6	15.9	14.9
30分～1時間	18.7	21.8	21.3
1時間～3時間	41.0	42.6	43.1
3時間より多い	22.8	19.7	20.7

※R5,R6については、通信型ゲーム機を使う時間。高校についてはR7からの調査。

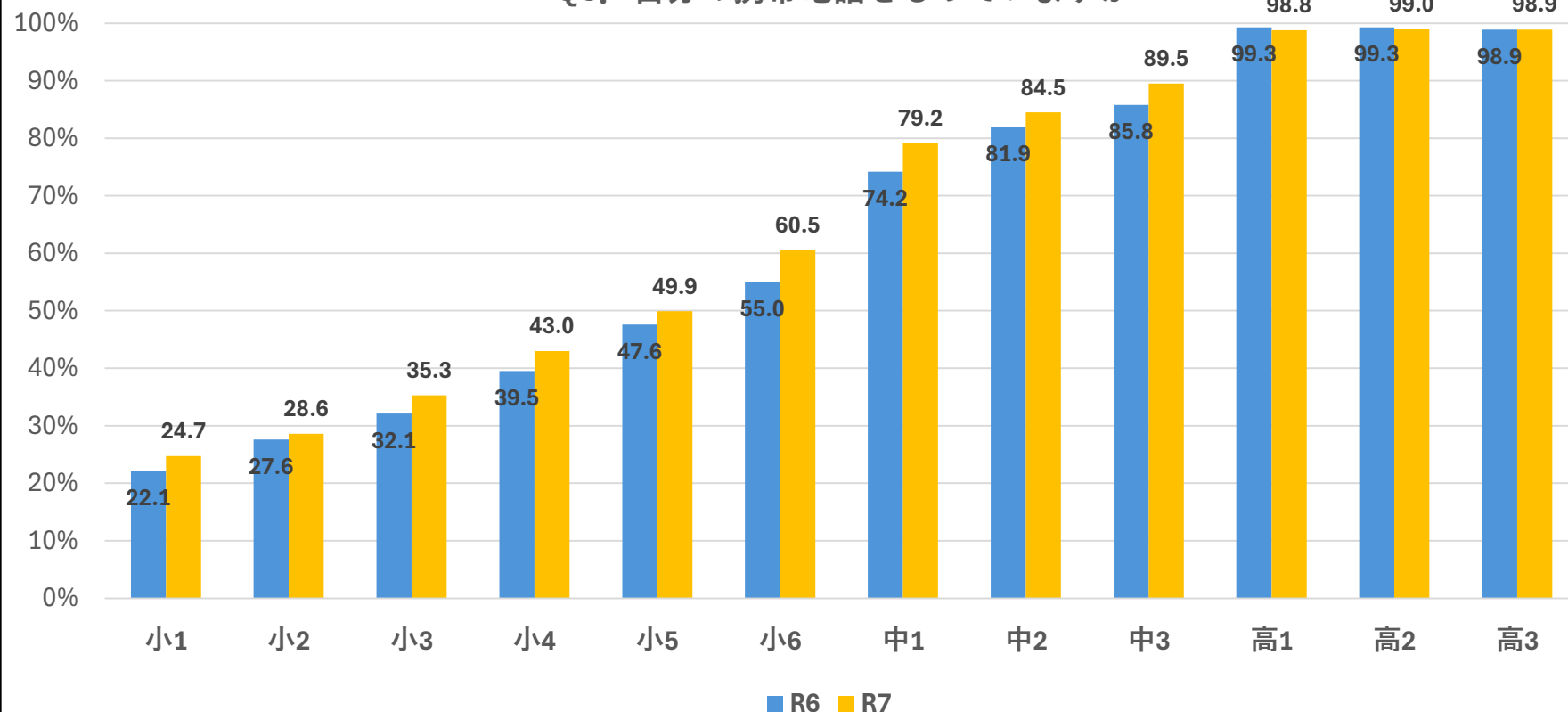
【傾向】

- ・学年が上がるにつれて使用時間が長くなる傾向にあり、小学校高学年での長時間使用の傾向が顕著となっている。

【指導・啓発のポイント】

- 家庭でのルールづくりや定期的なルールの見直しについて、児童生徒だけではなく、保護者への啓発も継続する。

Q3. 自分の携帯電話を持っていますか



校種別経年変化 (%)

	R7	R6	R5
小学校 (1～3年)	29.6	27.4	25.8
小学校 (4～6年)	51.4	47.6	45.1
中学校	84.4	80.5	76.9
高等学校	98.9	99.2	98.9

【傾向】

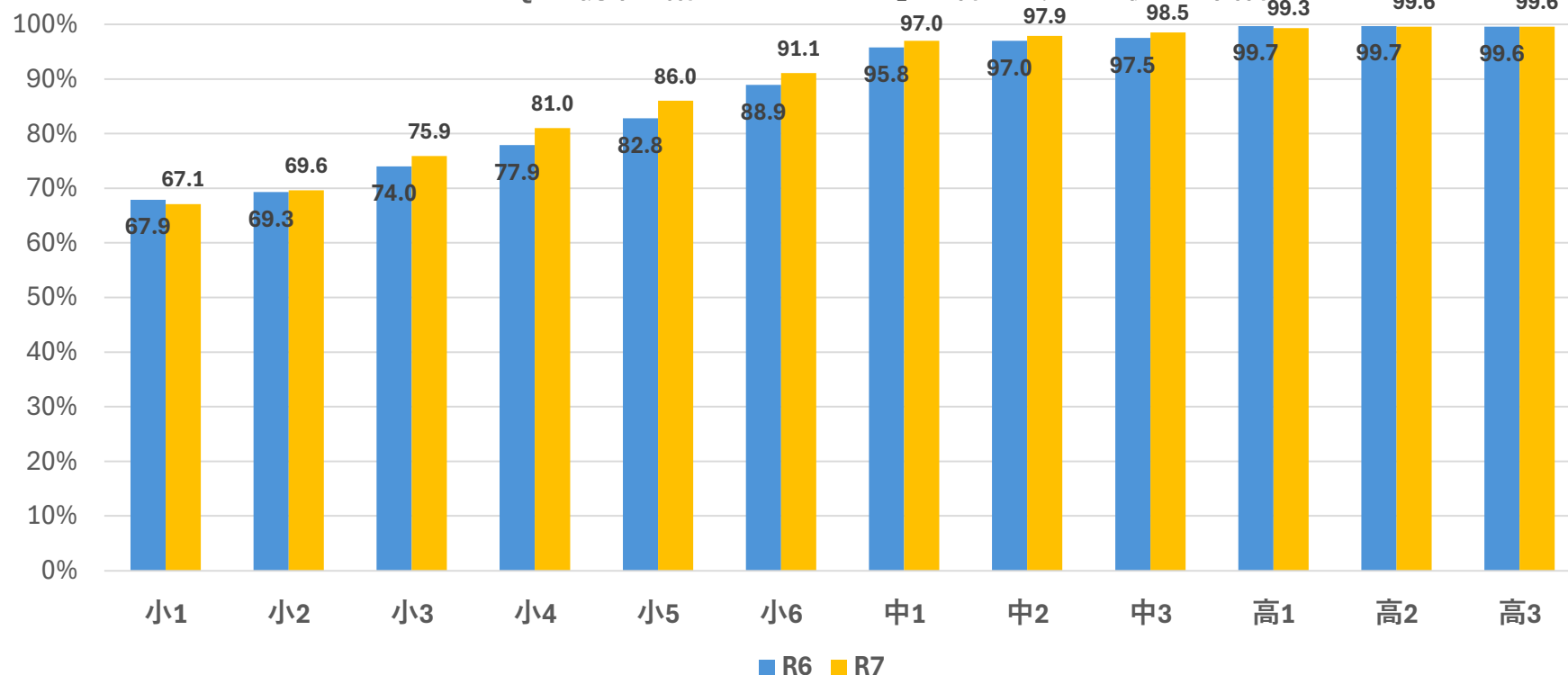
- ・小中学生については、所有率が増加し続けている。
- ・高校生は、ほぼすべての生徒が所有している。
- ・小学校高学年、中学校での所持率の増加が顕著である。

【指導・啓発のポイント】

○フィルタリング（ペアレンタルコントロール）の設定は、子どもの安全を守るために不可欠であることを保護者に認識していただくよう継続的に啓発する。

Q4. 携帯電話は、スマートフォンですか

※Q3で携帯電話を「持っている」と答えた児童生徒のみ回答



校種別経年変化 (%)

	R7	R6	R5
小学校 (1～3年)	71.5	70.8	66.4
小学校 (4～6年)	86.7	84.0	80.8
中学校	97.8	96.8	95.1
高等学校	99.5	99.7	99.8

【傾向】

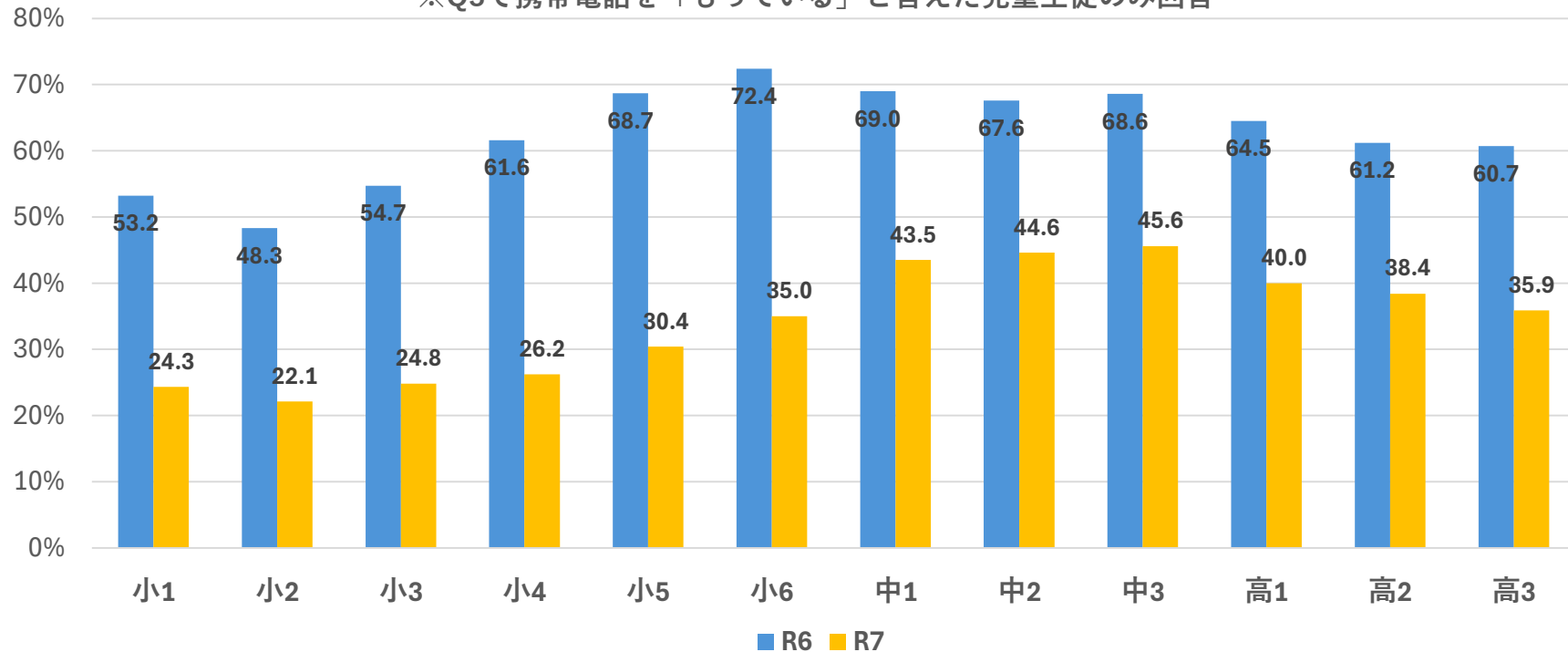
- ・携帯電話を所持している者のうち、中高生の90%以上がスマートフォンである。
- ・学年が上がるにつれ、スマートフォンの所有率が上昇している。小学校低学年でスマートフォンの所持率が上昇している。

【指導・啓発のポイント】

○有害サイトへアクセスする危険性が増すため、フィルタリング（ペアレンタルコントロール）設定の重要性とともに、保護者が子どもの使用状況を見守ることについて啓発する。

Q5. フィルタリングをしていますか

※Q3で携帯電話を「持っている」と答えた児童生徒のみ回答



校種別経年変化（小学校1～3年）（%）

	R7	R6	R5
している	23.8	53.3	53.4
していない	17.1	46.7	46.6
わからない	58.9		

校種別経年変化（小学校4～6年）（%）

	R7	R6	R5
している	31.1	68.7	69.0
していない	12.6	31.3	31.0
わからない	56.2		

校種別経年変化（中学校）（%）

	R7	R6	R5
している	44.6	68.4	68.2
していない	17.3	31.6	31.8
わからない	38.1		

校種別経年変化（高校）（%）

	R7	R6	R5
している	38.1	62.2	64.9
していない	26.5	37.8	35.1
わからない	35.4		

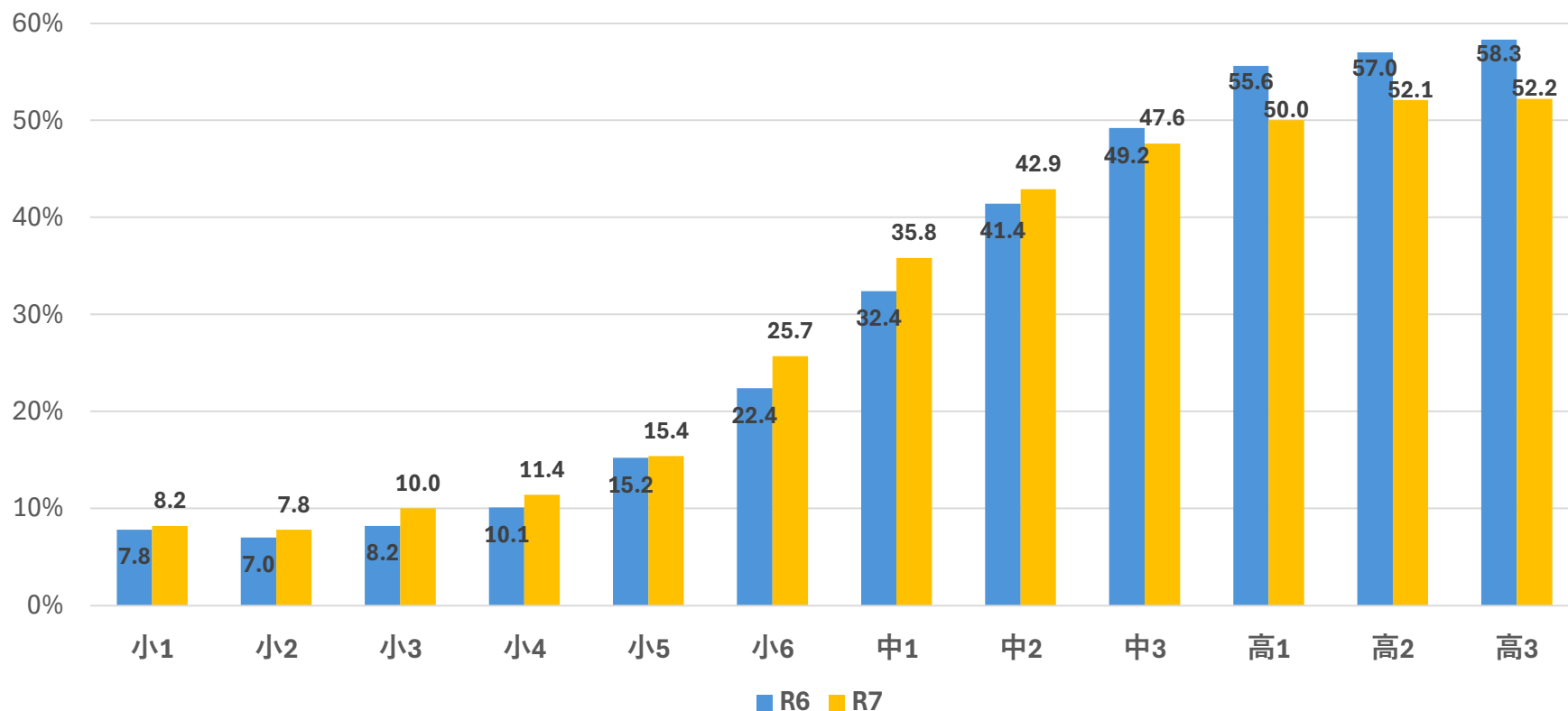
【傾向】

- ・今年度から「わからない」の選択肢を追加したため、設定率が低下している。
- ・小中学生では6～7人に1人が、高校生では4人に1人がフィルタリングの設定をしていない。

【指導・啓発のポイント】

○犯罪被害について明示しながら、フィルタリングを設定することは、自らの安全を守ることにもつながることを繰り返し周知し、家庭でも見守りを依頼する必要がある。

Q6. SNSに書き込みをしたことがありますか



校種別経年変化 (%)

	R7	R6	R5
小学校 (1～3年)	8.7	7.7	7.0
小学校 (4～6年)	17.7	16.1	13.0
中学校	42.1	40.9	39.1
高等学校	51.4	57.0	59.2

【傾向】

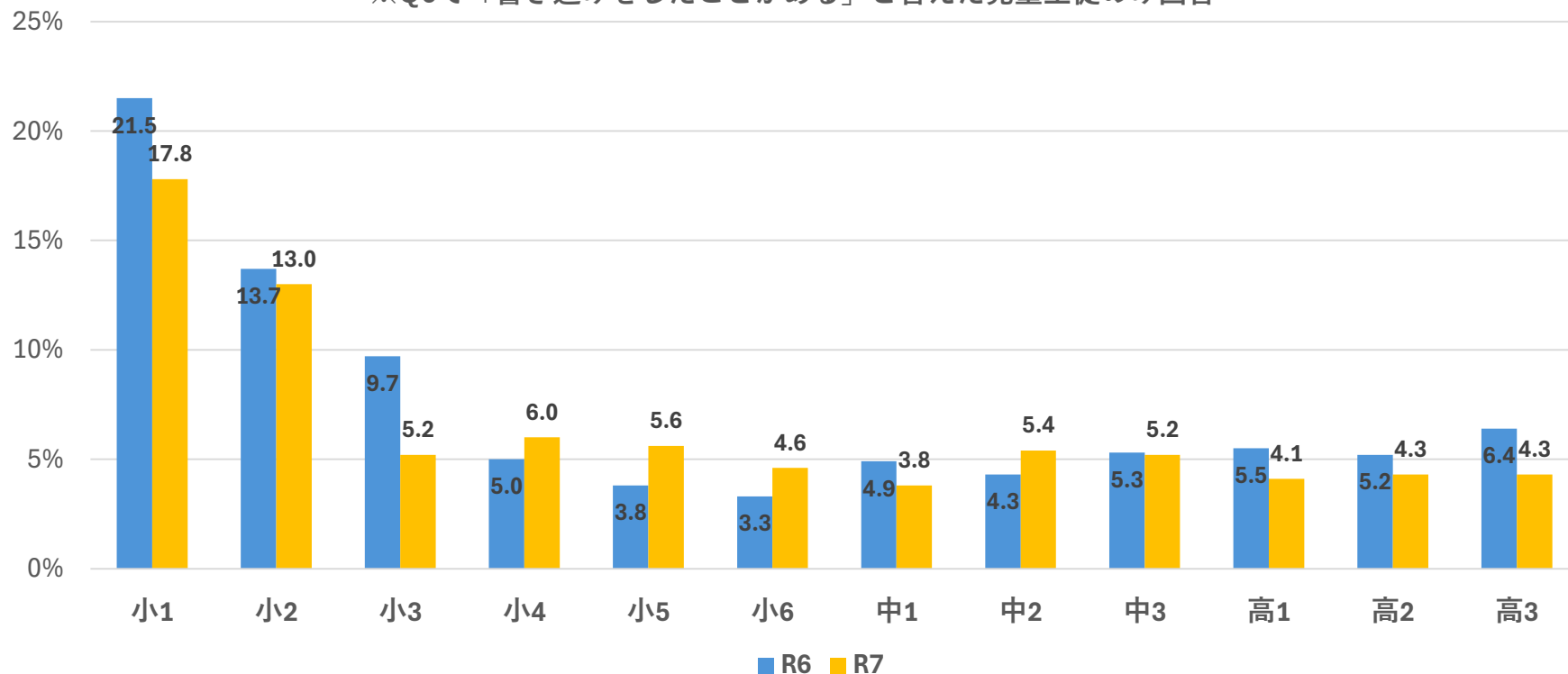
・小中学生の児童生徒の書き込みの経験がある割合が上昇している。

【指導・啓発のポイント】

○SNSに他人を誹謗中傷するような書き込みをすることは、侮辱罪や名誉毀損罪等にもつながる行為であることを踏まえ、学校や家庭において継続的に指導する。

Q7. 他人の悪口や個人情報を公開するような書き込みをしたことがありますか

※Q6で「書き込みをしたことがある」と答えた児童生徒のみ回答



校種別経年変化 (%)

	R7	R6	R5
小学校 (1～3年)	11.3	14.7	16.8
小学校 (4～6年)	5.2	3.8	3.8
中学校	4.9	4.9	4.0
高等学校	4.3	5.7	5.2

【傾向】

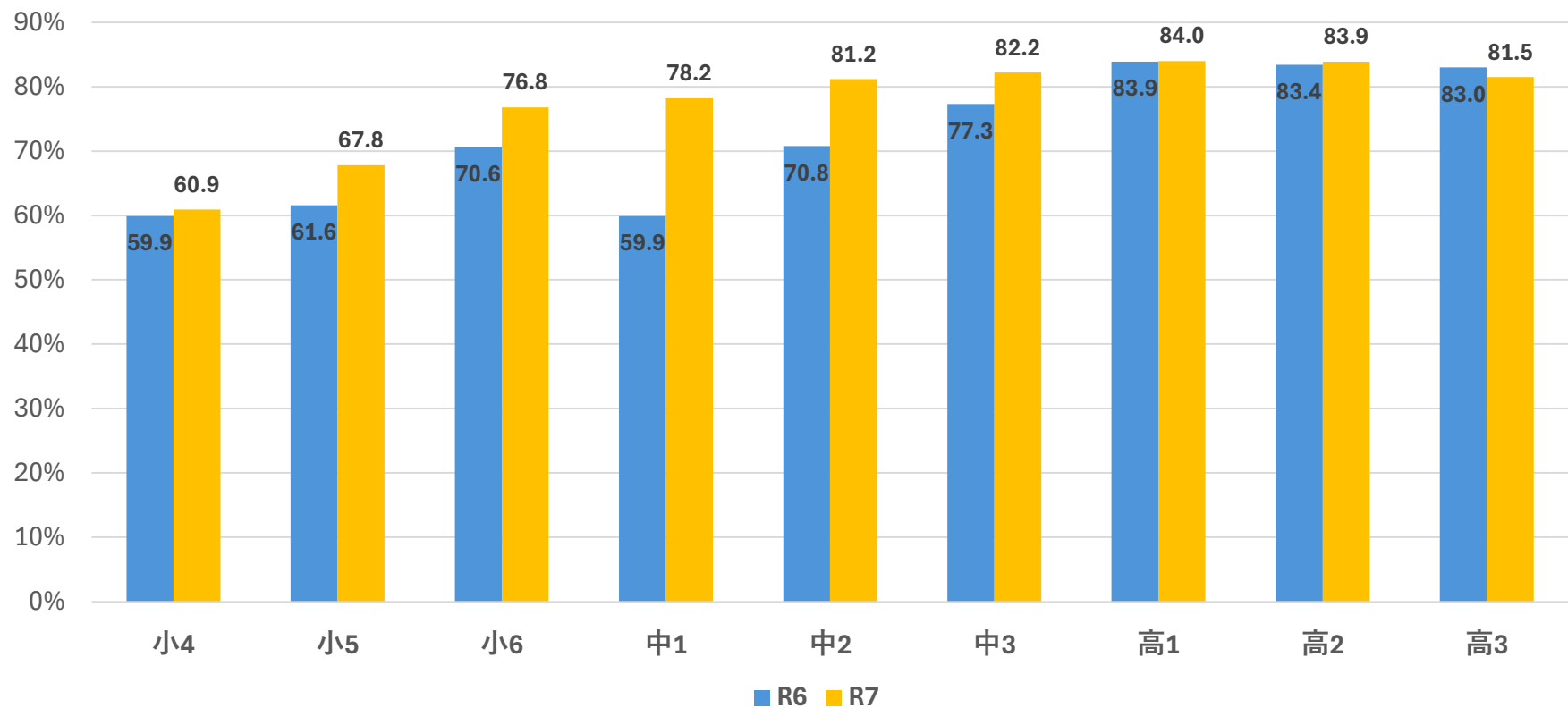
・小学校低学年で悪口や個人情報を書き込む割合が高い。

【指導・啓発のポイント】

○小学校の早い段階から、スマートフォンの正しい使用の仕方やトラブルに発展する危険性について、繰り返し指導する必要がある。

○思ったことをすぐに書き込むのではなく、一度立ち止まり、冷静になることの必要性などを啓発する。

Q8. オンラインゲームをしたことがありますか



校種別経年変化 (%)

	R7	R6	R5
小学校 (4～6年)	68.7	69.5	69.0
中学校	80.5	81.4	80.6
高等学校	83.1	83.4	80.6

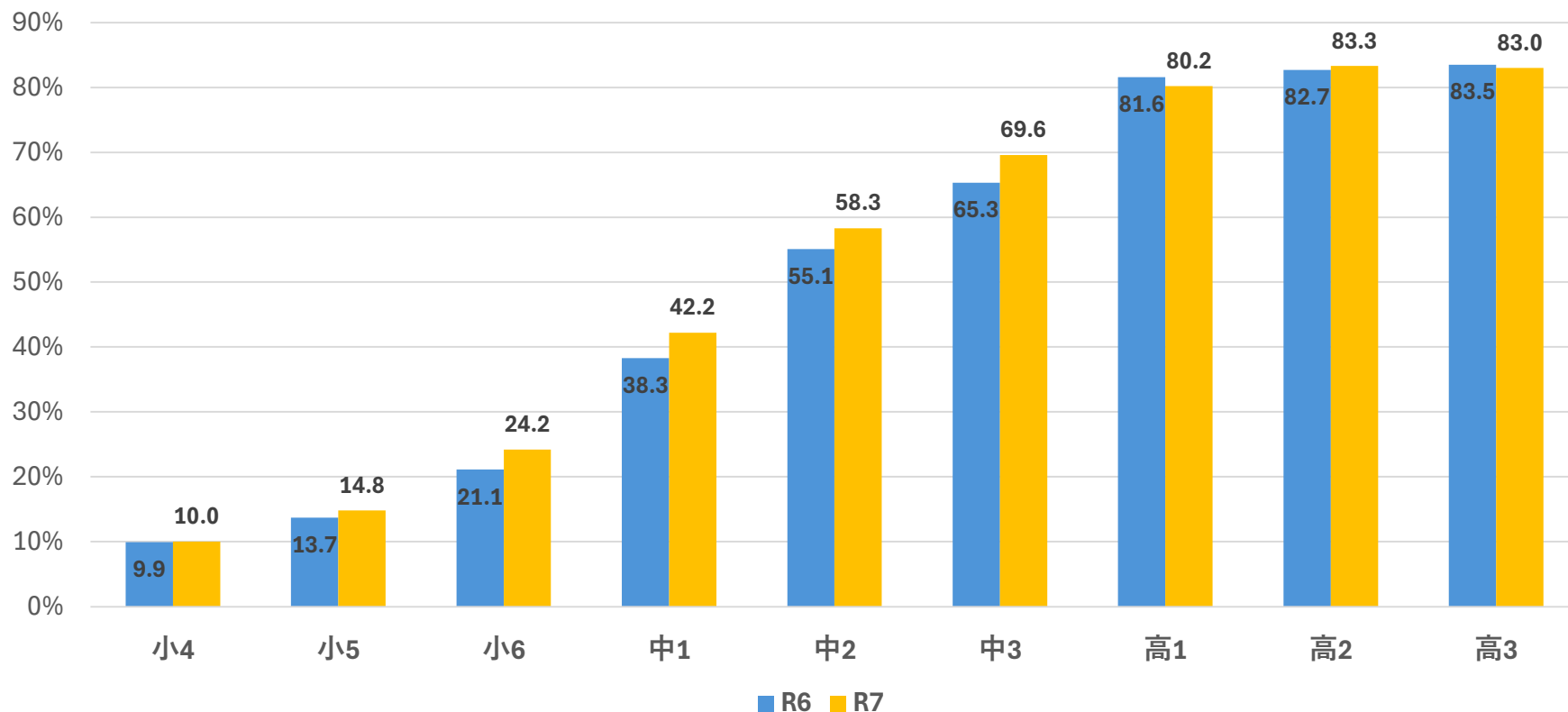
【傾向】

- ・ 小学校高学年と中学校（特に中学校1年生）で増加している。

【指導・啓発のポイント】

- チャットで交流できるオンラインゲームがあるため、犯罪や大きなトラブルに発展しないよう、継続的な注意喚起が必要である。
- 保護者は子どものオンラインでの交流状況を把握することも大切である。

Q9. 自分のホームページ（ブログ、インスタなど）をもっていますか



校種別経年変化 (%)

	R7	R6	R5
小学校（4～6年）	16.5	15.1	12.2
中学校	56.6	52.7	47.3
高等学校	82.2	82.5	80.9

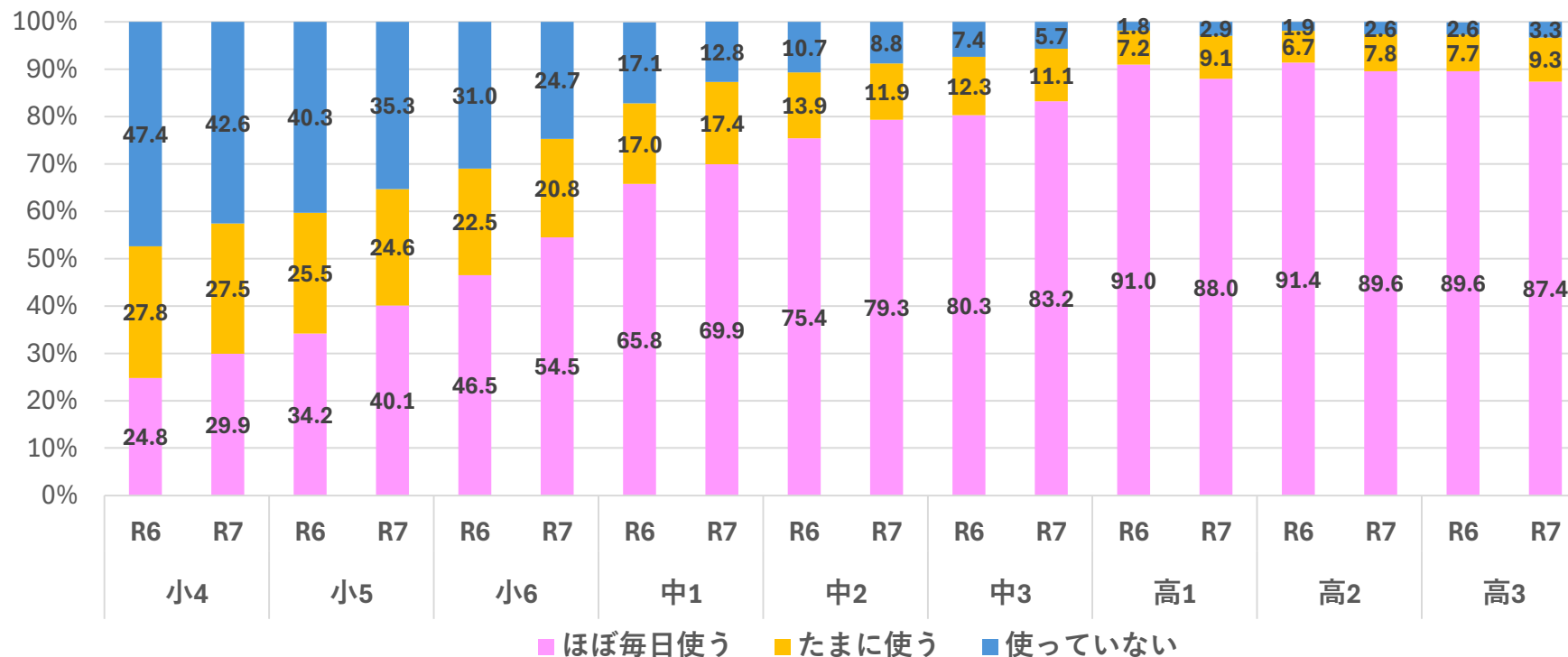
【傾向】

- ・ 小学校高学年と中学校で増加の傾向が見られる。特に中学生での増加が顕著である。
- ・ 高校生の約8割が所持している。

【指導・啓発のポイント】

○個人情報や写真を掲載することで、犯罪に巻き込まれるリスクが高くなることを踏まえ、自分だけでなく、家族や友人の情報も安易に掲載しないよう継続した指導をする。

Q10. 学習以外でホームページを見たり、メールやチャット、SNS、オンラインゲームなどをしたりするために、携帯電話をどれくらい使いますか



校種別経年変化（小学校4～6年）（%）

	R7	R6	R5
ほぼ毎日使う	41.8	35.5	32.4
たまに使う	24.2	25.2	25.5
使っていない	33.9	39.3	42.2

校種別経年変化（中学校）（%）

	R7	R6	R5
ほぼ毎日使う	77.4	73.7	70.1
たまに使う	13.5	14.5	16.3
使っていない	9.1	11.8	13.6

校種別経年変化（高校）（%）

	R7	R6	R5
ほぼ毎日使う	88.3	90.7	88.7
たまに使う	8.7	7.2	8.8
使っていない	2.9	2.1	2.5

【傾向】

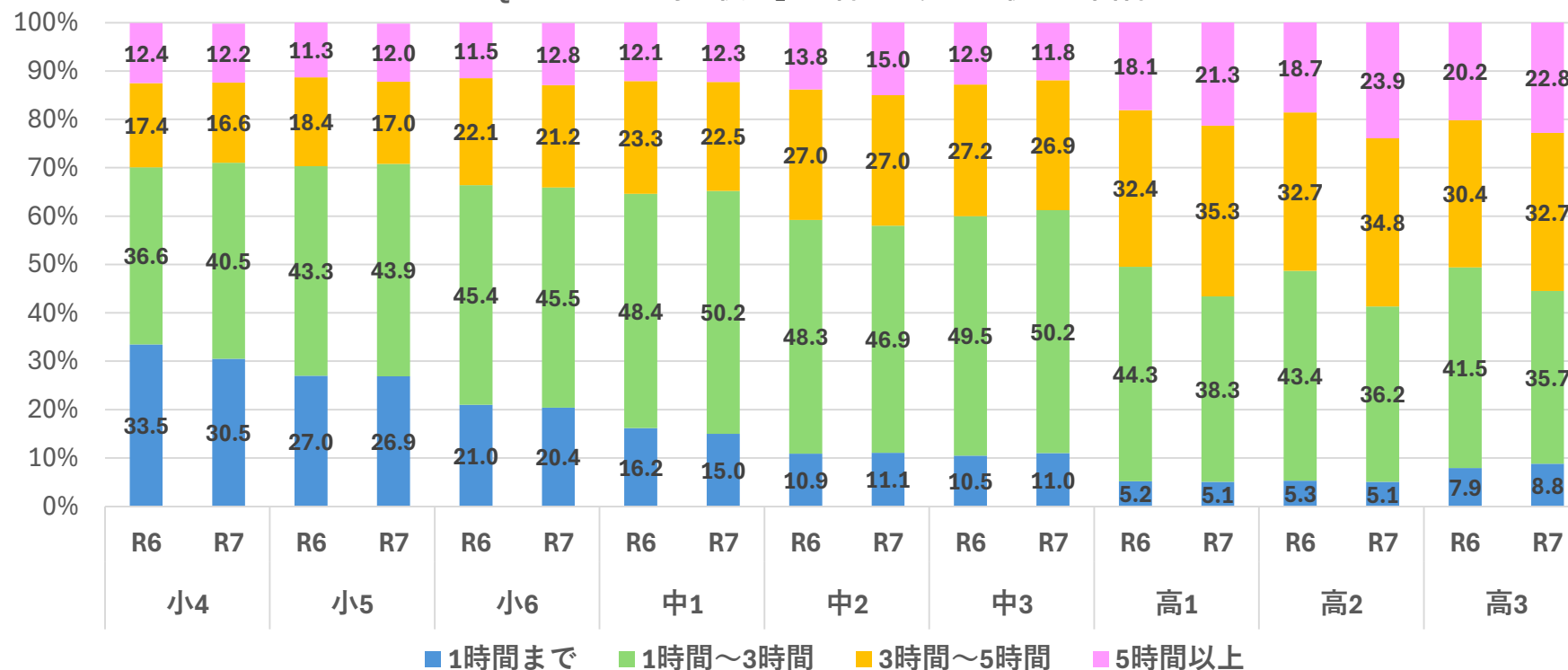
・小中学校では、ほぼ毎日使う児童生徒の割合が増加している。 ・高校生の約9割がほぼ毎日使っている。

【指導・啓発のポイント】

○家庭でのルールづくりや定期的なルールの見直しの啓発も継続する。ペアレンタルコントロールの必要性について周知する。

Q11. 携帯電話を使う時間は平日で1日あたりどれくらいですか

※Q10で「ほぼ毎日使う」と答えた児童生徒のみ回答



校種別経年変化（小学校4～6年）（%）

	R7	R6	R5
1時間まで	24.8	25.7	30.4
1時間～3時間	43.8	42.8	40.9
3時間～5時間	18.8	19.9	17.7
5時間より多い	12.4	11.7	11.0

校種別経年変化（中学校）（%）

	R7	R6	R5
1時間まで	12.3	12.4	14.1
1時間～3時間	49.1	48.7	49.4
3時間～5時間	25.6	25.9	24.1
5時間より多い	13.0	13.0	12.5

校種別経年変化（高校）（%）

	R7	R6	R5
1時間まで	6.4	6.1	7.3
1時間～3時間	36.7	43.1	43.5
3時間～5時間	34.3	31.9	30.3
5時間より多い	22.7	19.0	18.9

【傾向】

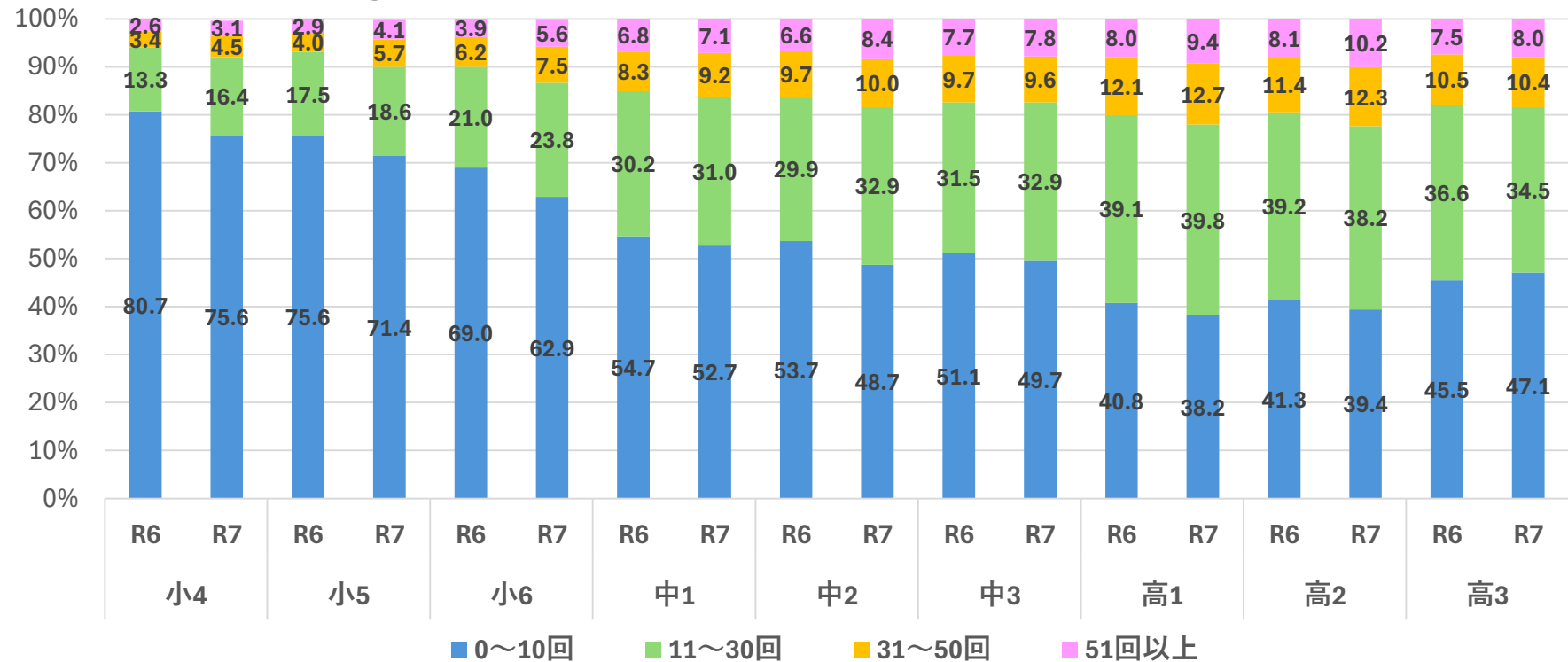
- ・学年が上がるにつれて、使用時間が長くなっている。
- ・高校生では、約半数の生徒が毎日3時間以上使用している。

【指導・啓発のポイント】

○ネット依存（スマホ依存）につながる恐れも踏まえ、必要に応じて利用の仕方を見直すとともに、ペアレンタルコントロールの活用についても周知する。

Q12. メールやチャット、SNSは1日に何回ぐらい使いますか

Q10で「ほぼ毎日使う」「たまに使う」と答えた児童生徒のみ回答



校種別経年変化（小学校4～6年）（％）

	R7	R6	R5
0回～10回	69.2	74.4	77.2
11回～30回	20.0	17.7	15.7
31回～50回	6.1	4.7	4.3
51回以上	4.4	3.2	2.8

校種別経年変化（中学校）（％）

	R7	R6	R5
0回～10回	50.4	53.1	57.9
11回～30回	32.3	30.6	28.2
31回～50回	9.6	9.3	8.1
51回以上	7.8	7.1	5.8

校種別経年変化（高校）（％）

	R7	R6	R5
0回～10回	41.6	42.5	47.1
11回～30回	37.5	38.3	37.1
31回～50回	11.8	11.4	9.1
51回以上	9.2	7.9	6.7

【傾向】

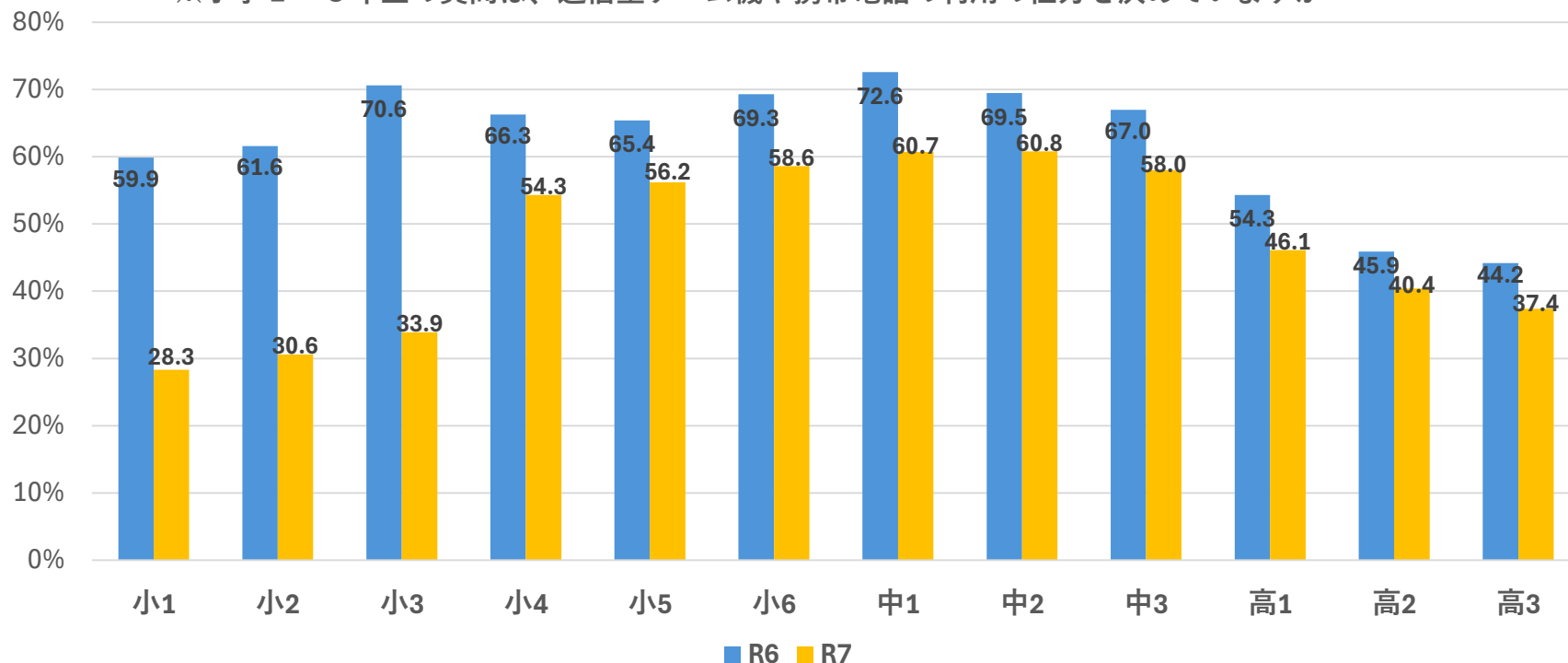
- ・ほとんどの学年で、11回以上使う児童生徒が増加している。小学生で使用頻度の上昇が目立つ。

【指導・啓発のポイント】

○適切な使用方法や使用時間、使用回数等を家族で話し合い、互いに納得してルールをつくるよう啓発する。

Q13. 家では、自分が使う携帯電話やタブレット端末などの利用の仕方を決めていますか

※小学1～3年生の質問は、通信型ゲーム機や携帯電話の利用の仕方を決めていますか



校種別経年変化（小学校1～3年）（％）

	R7	R6	R5
決めている	31.0	64.2	63.7
決めていない	20.2	35.8	36.3
使っていない	48.7		

校種別経年変化（小学校4～6年）（％）

	R7	R6	R5
決めている	56.4	67.2	65.2
決めていない	25.9	32.8	34.8
使っていない	17.7		

校種別経年変化（中学校）（％）

	R7	R6	R5
決めている	59.8	69.7	66.6
決めていない	34.2	30.3	33.4
使っていない	5.9		

校種別経年変化（高校）（％）

	R7	R6	R5
決めている	41.2	48.3	48.9
決めていない	56.9	51.7	51.1
使っていない	1.9		

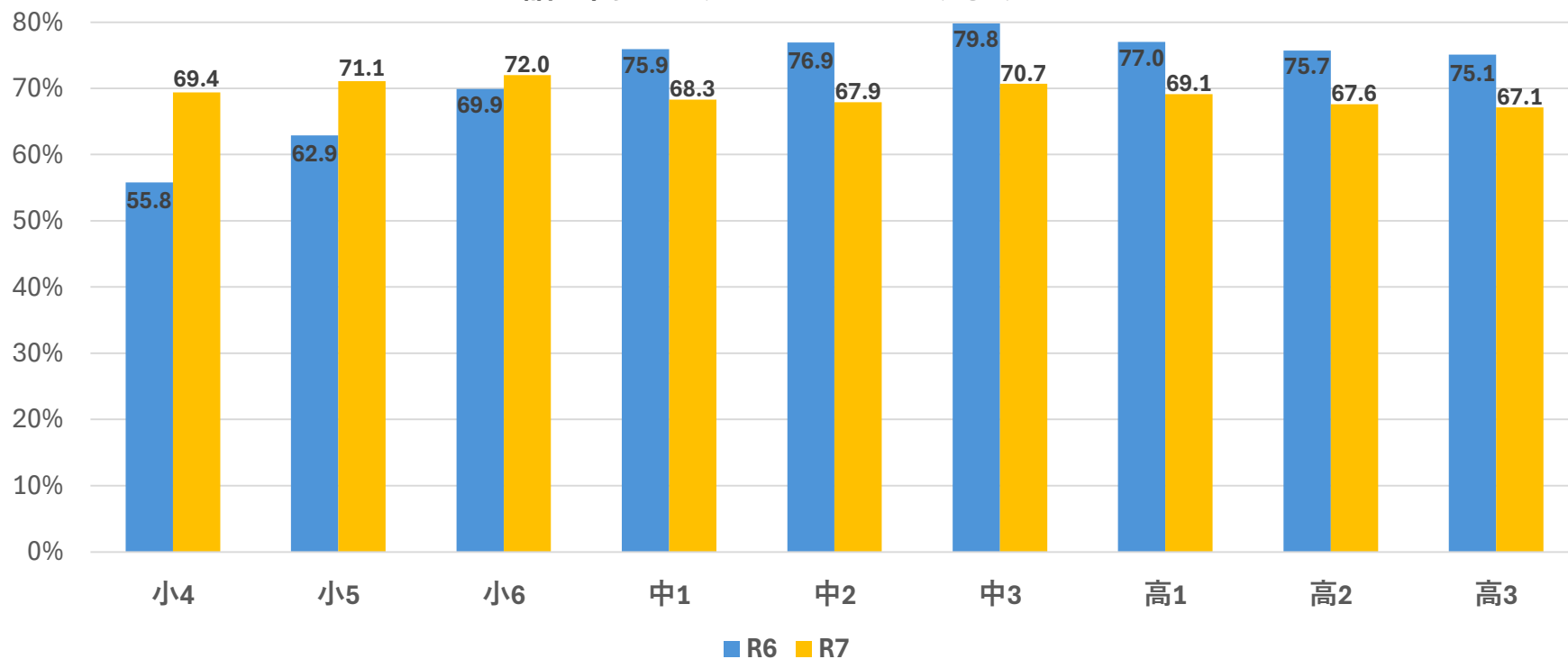
【傾向】

- ・今年度から「携帯電話等を使っていない」の選択肢を追加したため、数値が低下している。
- ・通信型ゲーム機については、利用の仕方を決めていない家庭が多いと考えられる。
- ・中学生以上では学年が上がるほど利用の仕方を決めている割合が低下している。

【指導・啓発のポイント】

- 保護者が子どもに通信型ゲーム機や携帯電話を持たせた時に家庭でルールをつくり、そのルールを定期的に見直すようにする。
- 早い段階から、正しい利用の仕方やトラブルに発展する危険性について伝える。

Q14. 家で情報モラルや携帯電話のマナー等について、話をしたり、話を聞いたりしたことがありますか



校種別経年変化 (%)

	R7	R6	R5
小学校 (4～6年)	70.9	63.1	61.0
中学校	69.0	77.5	75.0
高等学校	67.9	76.0	74.0

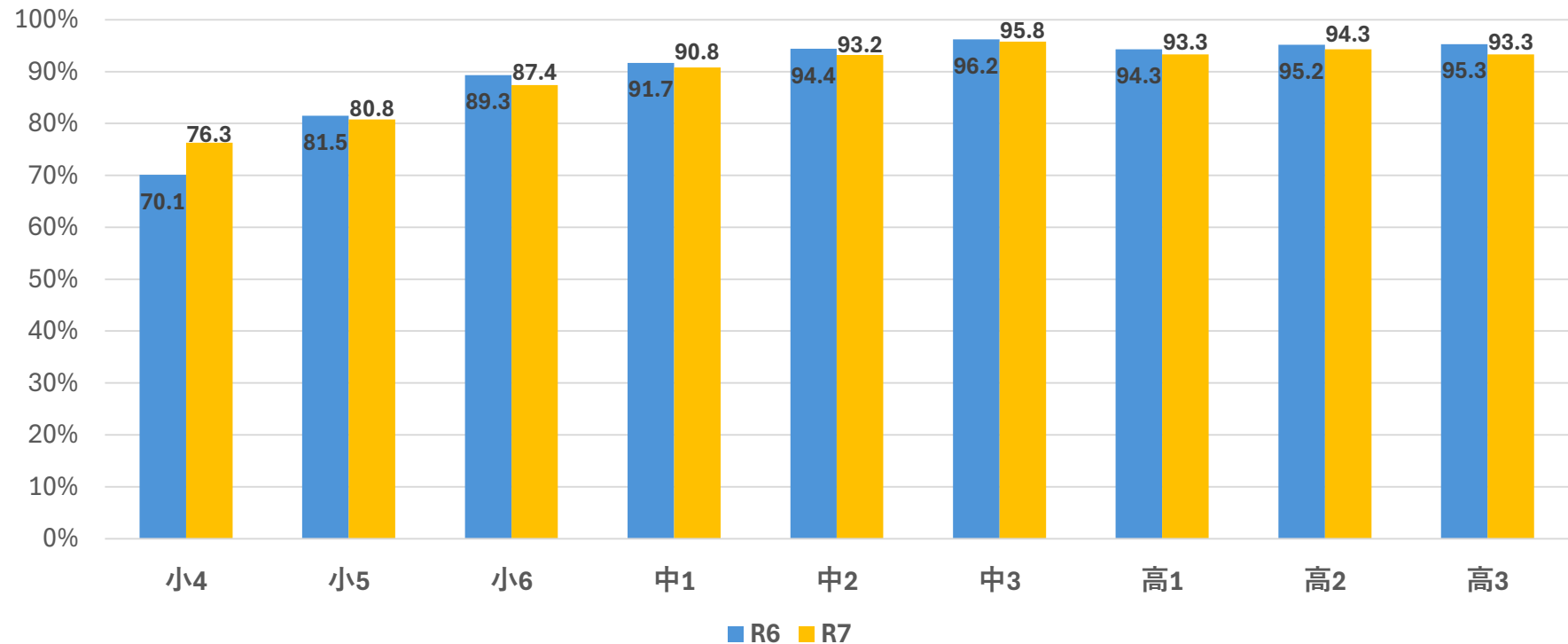
【傾向】

- ・小学校で増加、中学校・高等学校で減少している。

【指導・啓発のポイント】

- 事件等の報道を機に、小学校の早い段階から保護者が意図的に情報モラルやマナーについて話題にし、保護者と子どもで考えることが大切である。
- 定期的に家庭のルールを見直すことを啓発する。

Q15. 学校の授業（朝の会・帰りの会・学活・HR・集会など）で、
情報モラルや携帯電話のマナーについて勉強したことがありますか



校種別経年変化 (%)

	R7	R6	R5
小学校（4～6年）	81.6	80.6	78.3
中学校	93.3	94.1	93.9
高等学校	93.6	95.3	94.3

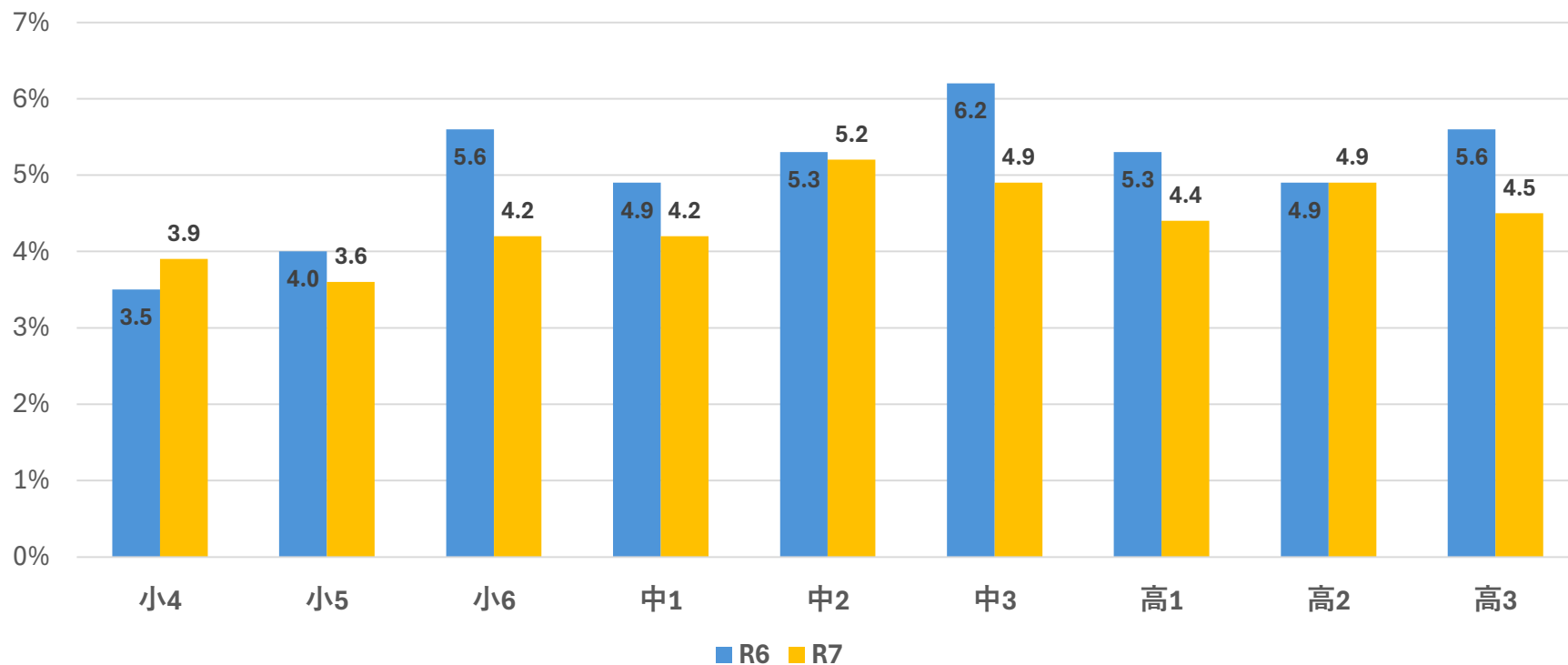
【傾向】

- ・中学校・高等学校では高い割合（90%以上）を示している。

【指導・啓発のポイント】

- 今後も小学生の早い段階から、情報モラルについて継続的な指導をする。
- 情報モラルに関わる内容が報道されたとき等、SHRや短学活等で意見交流するなど、日常的な指導も意識する。

Q16. インターネットや携帯電話のメール、チャット、SNSなどで被害を受けたり、嫌な思いをしたりしたことがありますか



校種別経年変化 (%)

	R7	R6	R5
小学校（4～6年）	3.9	4.4	3.9
中学校	4.7	5.5	5.2
高等学校	4.6	5.2	3.9

【傾向】

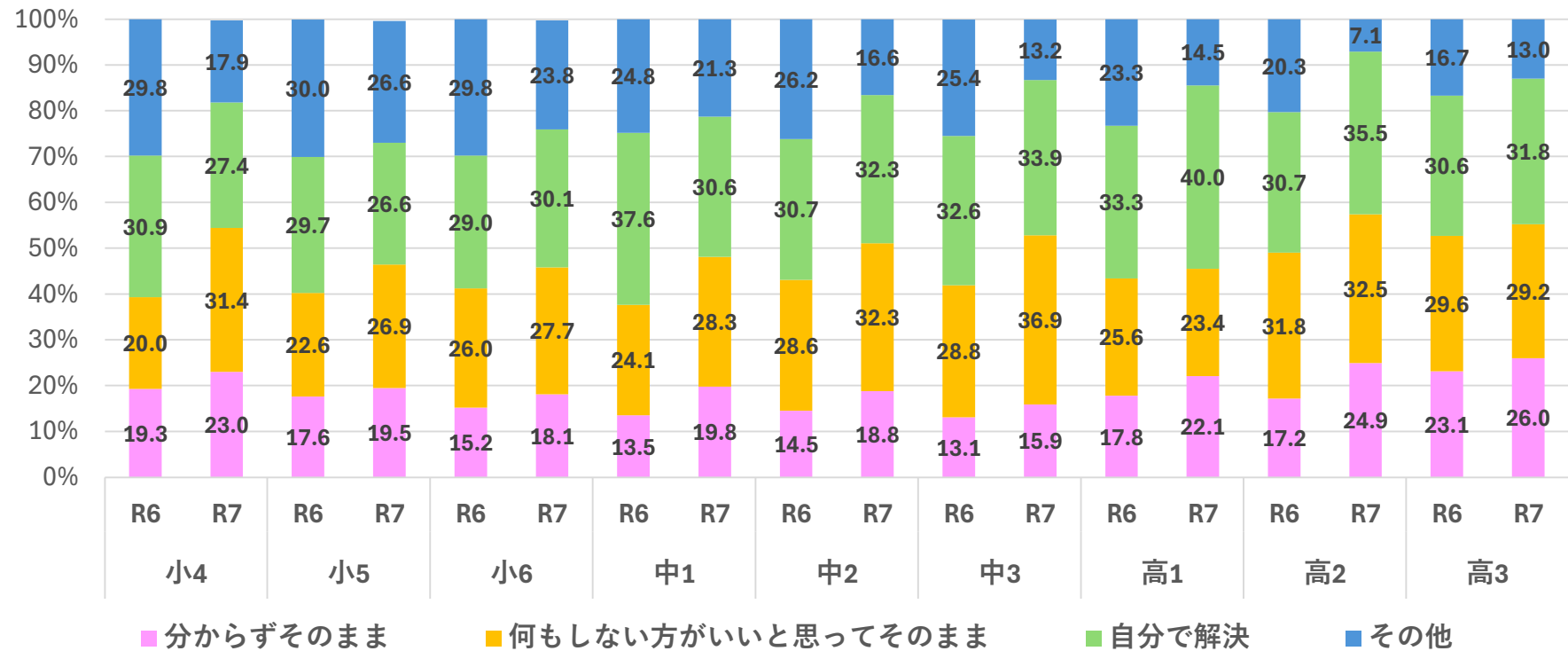
- ・全体的には、前年度よりも減少傾向にある。

【指導・啓発のポイント】

- ネット上の書き込みは、真意が伝わりにくい場合もあるため、やった本人に悪意がなくても、相手に嫌な思いをさせることもある。アップロードをする前に、相手の気持ちに配慮した内容かを十分に確認する必要があることを指導する。

Q17. 被害を受けたとき、どうしましたか

※Q16で「ある」と答えた児童生徒のみ回答



校種別経年変化（小学校4～6年）（%）

	R7	R6	R5
どうすればよいかわからずそのまま	20.1	17.0	18.7
何もしない方がいいと思いそのまま	28.7	23.4	26.6
自分で解決した	28.2	29.7	29.1
その他	22.8	29.9	25.6

校種別経年変化（中学校）（%）

	R7	R6	R5
どうすればよいかわからずそのまま	18.1	13.7	15.0
何もしない方がいいと思いそのまま	32.7	27.3	23.5
自分で解決した	32.3	33.6	33.8
その他	16.9	25.5	27.7

校種別経年変化（高校）（%）

	R7	R6	R5
どうすればよいかわからずそのまま	24.4	19.5	19.7
何もしない方がいいと思いそのまま	28.6	28.9	29.3
自分で解決した	35.7	31.6	30.0
その他	11.3	20.1	21.0

【傾向】

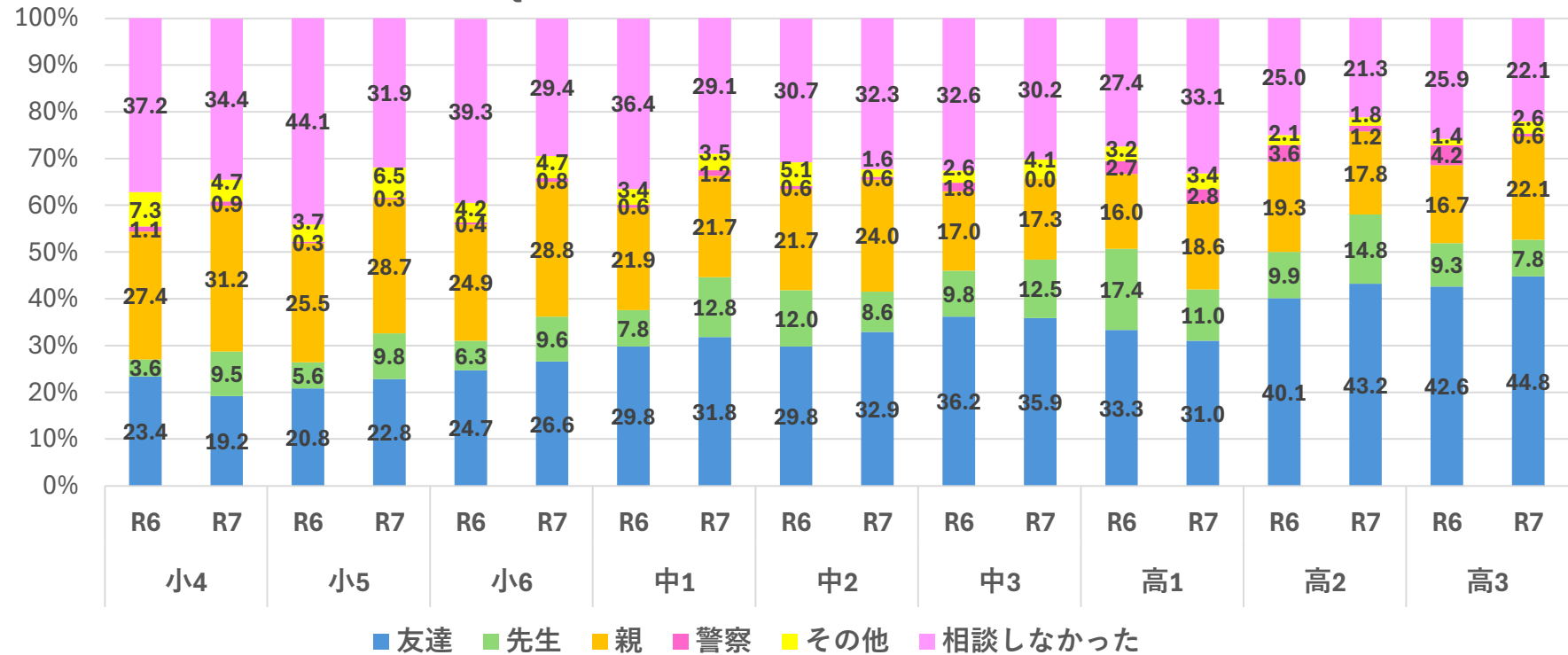
・全ての校種で「どうすればよいかわからずそのまま」の割合が増加している。

【指導・啓発のポイント】

○SNS等の使用頻度が高くなり、被害にあう可能性も高くなっている。トラブルを放置し、一人で抱え込むことがないよう、対処法について指導する。

Q18. 被害を受けたとき、誰かに相談しましたか

※Q16で「ある」と答えた児童生徒のみ回答



校種別経年変化（小学校4～6年）（%）

	R7	R6	R5
友達	23.1	23.2	21.9
先生	9.6	5.4	5.5
親	29.6	20.3	21.6
警察	0.7	0.6	0.6
その他	5.3	4.9	4.9
相談しなかった	31.8	45.7	45.4

校種別経年変化（中学校）（%）

	R7	R6	R5
友達	33.6	32.2	29.9
先生	11.2	9.9	11.7
親	21.0	20.0	21.2
警察	0.6	1.0	0.7
その他	3.0	3.7	2.7
相談しなかった	30.6	33.2	33.8

校種別経年変化（高校）（%）

	R7	R6	R5
友達	40.0	38.6	36.9
先生	11.3	12.3	9.1
親	19.4	17.2	17.6
警察	1.5	3.5	3.8
その他	2.6	2.2	5.5
相談しなかった	25.2	26.2	27.1

【傾向】

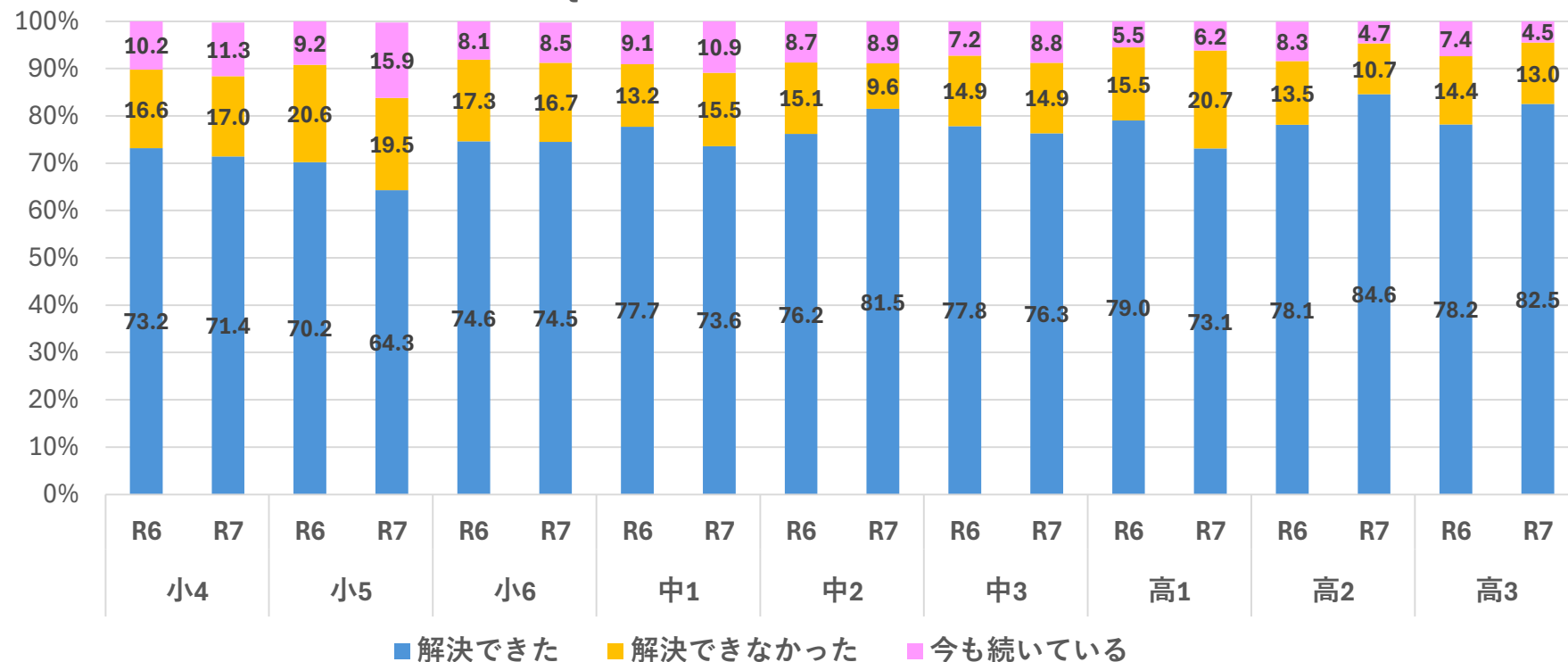
- ・友達や先生、親に相談する児童生徒が多い。
- ・相談しなかった児童生徒の割合は減少している。

【指導・啓発のポイント】

○友達だけでなく、身近な大人にも相談するよう啓発する。身近にいる人に相談できない児童生徒のために、相談窓口の情報を周知する。

Q19. 被害は解決できましたか

※Q16で「ある」と答えた児童生徒のみ回答



校種別経年変化（小学校4～6年）（％） 校種別経年変化（中学校）（％） 校種別経年変化（高校）（％）

	R7	R6	R5		R7	R6	R5		R7	R6	R5
解決できた	70.3	72.9	74.2	解決できた	77.4	77.3	80.4	解決できた	80.3	78.5	81.5
解決できなかった	17.7	18.1	17.4	解決できなかった	13.2	14.4	13.5	解決できなかった	14.5	14.5	13.0
今も続いている	11.7	9.0	8.4	今も続いている	9.5	8.3	6.1	今も続いている	5.1	7.0	5.5

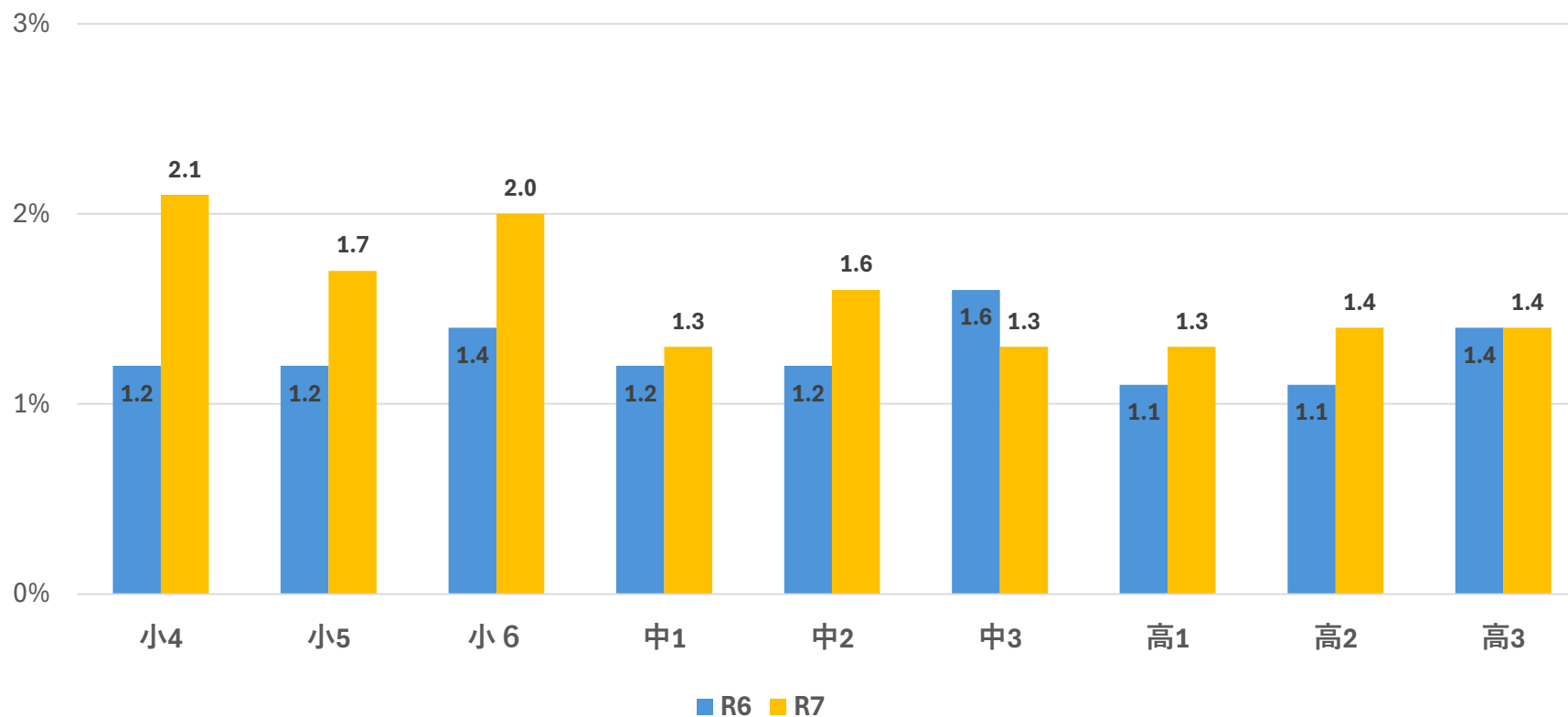
【傾向】

- ・どの学年においても、解決に至っていない児童生徒が2～3割程度いる。

【指導・啓発のポイント】

- 被害がより拡大することがないように、身近な大人（保護者や教員等）に相談するよう働きかける。
- 外部の支援機関を有効に活用するよう周知する。

Q20. SNSやメール、チャットなどの書き込みでいじめをうけたことがありますか



校種別経年変化 (%)

	R7	R6	R5
小学校 (4～6年)	1.9	1.3	1.3
中学校	1.4	1.3	1.3
高等学校	1.4	1.2	0.9

【傾向】

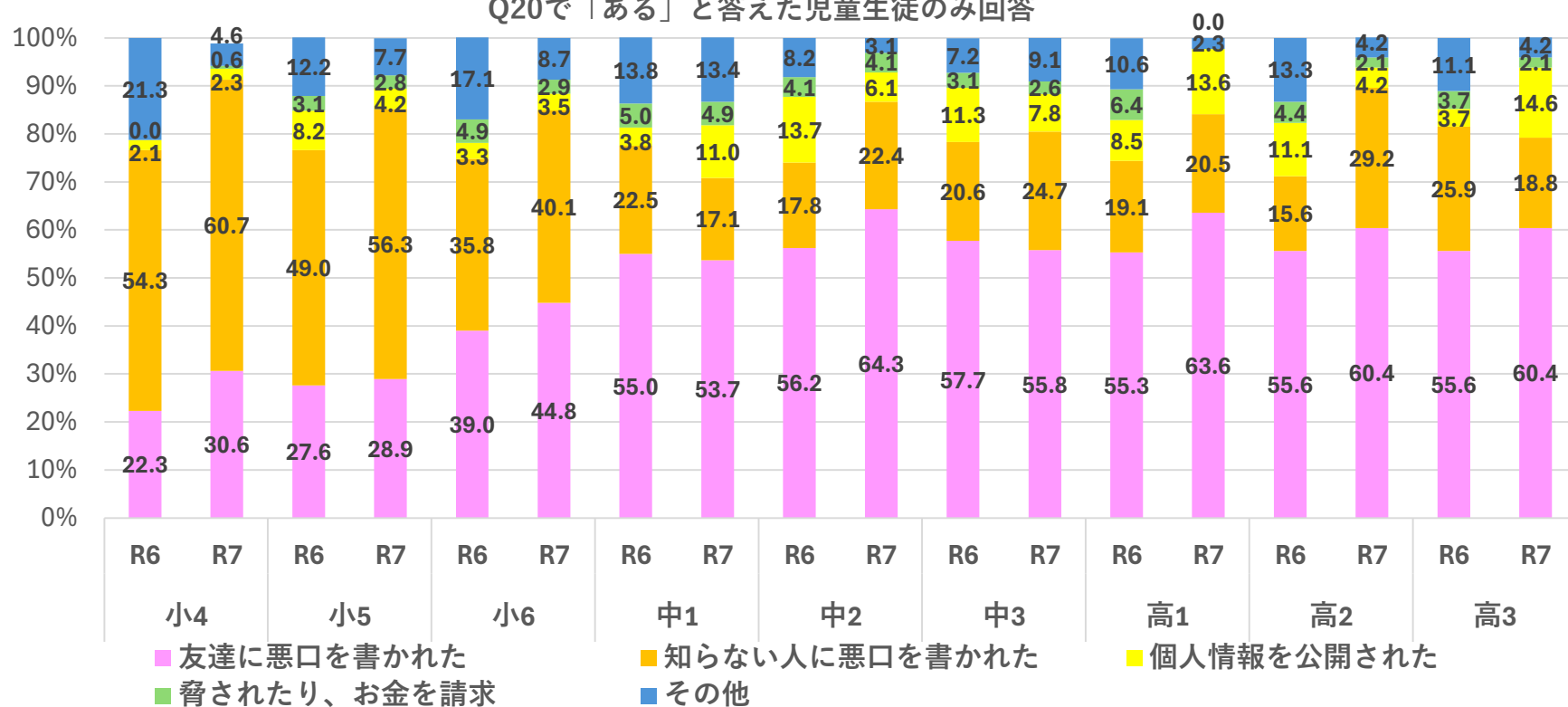
- ・「いじめを受けた」と回答した割合が全体的に増加傾向にある。

【指導・啓発のポイント】

- 書き込んだ本人ではなく、書き込まれた人が嫌な気持ちになるものは全てネットいじめであるということを指導し、例え匿名の投稿であっても、相手の人権を尊重しなければならないことを強調し、繰り返し指導する。

Q21. ネットいじめを受けたと感じた理由は何ですか

Q20で「ある」と答えた児童生徒のみ回答



校種別経年変化（小学校4～6年）（%）

	R7	R6	R5
友達に悪口を書かれた	35.1	30.5	31.7
知らない人に悪口を書かれた	52.2	45.4	43.4
個人情報を公開された	3.3	4.4	4.2
脅された、お金を請求された	2.1	2.9	2.8
その他	7.0	16.8	17.9

校種別経年変化（中学校）（%）

	R7	R6	R5
友達に悪口を書かれた	58.4	56.4	46.6
知らない人に悪口を書かれた	21.4	20.4	28.3
個人情報を公開された	8.2	9.6	6.3
脅された、お金を請求された	3.9	4.0	2.7
その他	8.2	9.6	16.1

校種別経年変化（高校）（%）

	R7	R6	R5
友達に悪口を書かれた	61.4	55.5	52.6
知らない人に悪口を書かれた	22.9	20.5	21.8
個人情報を公開された	10.7	7.5	14.3
脅された、お金を請求された	1.4	4.8	1.5
その他	3.6	11.6	9.8

【傾向】

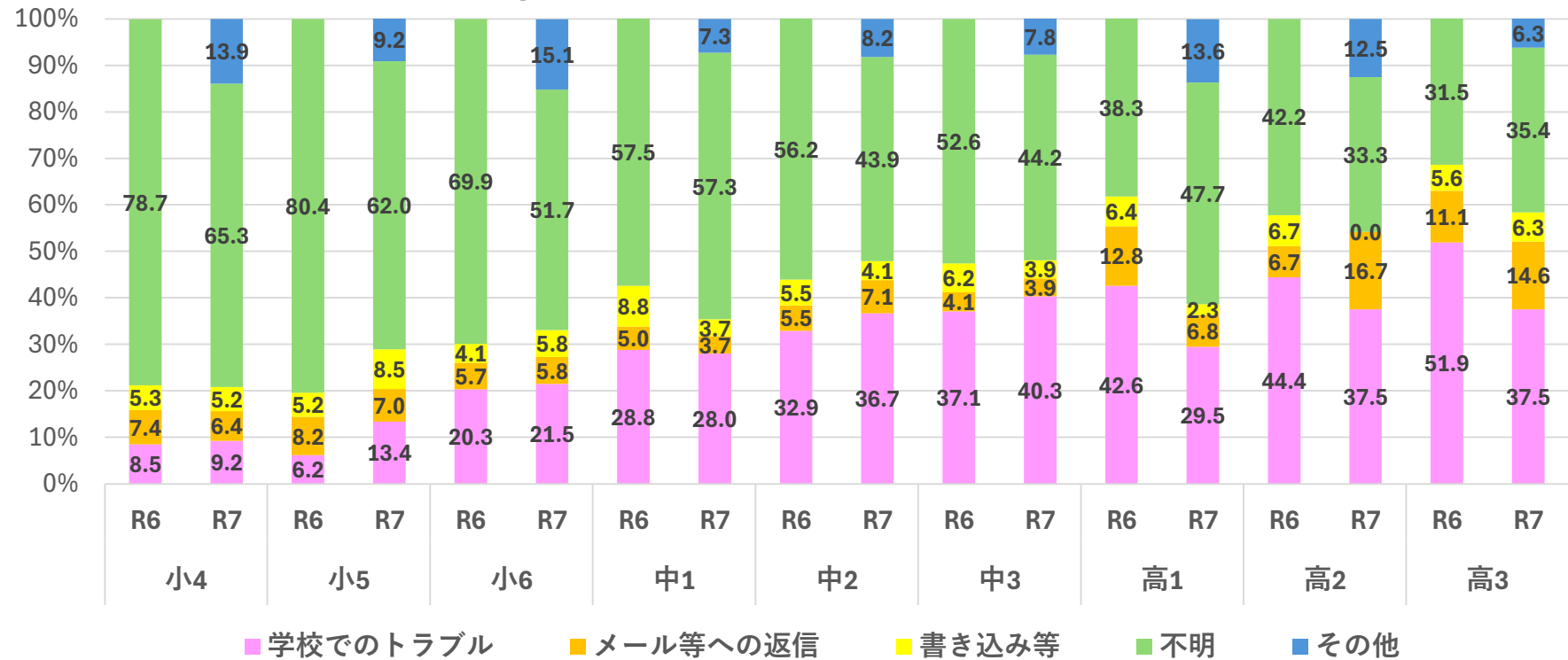
- ・小学生では「知らない人に悪口を書かれた」割合が、中学生以上では「友達に悪口を書かれた」割合が多い。

【指導・啓発のポイント】

- トラブルや犯罪に発展する前に、SNS利用に潜む危険性を日常的に指導する。
- 身近な大人が児童生徒の状況を日常的に見守る。

Q22. 何が原因でネットいじめを受けたと思いますか

Q20で「ある」と答えた児童生徒のみ回答



校種別経年変化（小学校4～6年）（％）

	R7	R6	R5
学校でのトラブル	14.8	12.4	10.2
メール等の返信に原因	6.4	7.0	9.0
書き込み等に原因	6.4	4.8	4.2
不明	59.5	75.8	76.6
その他	12.9		

校種別経年変化（中学校）（％）

	R7	R6	R5
学校でのトラブル	35.0	33.2	25.7
メール等の返信に原因	5.1	4.8	5.4
書き込み等に原因	3.9	6.8	8.1
不明	48.2	55.2	60.8
その他	7.8		

校種別経年変化（高校）（％）

	R7	R6	R5
学校でのトラブル	35.0	46.6	36.1
メール等の返信に原因	12.9	10.3	8.3
書き込み等に原因	2.9	6.2	9.0
不明	38.6	37.0	46.6
その他	10.7		

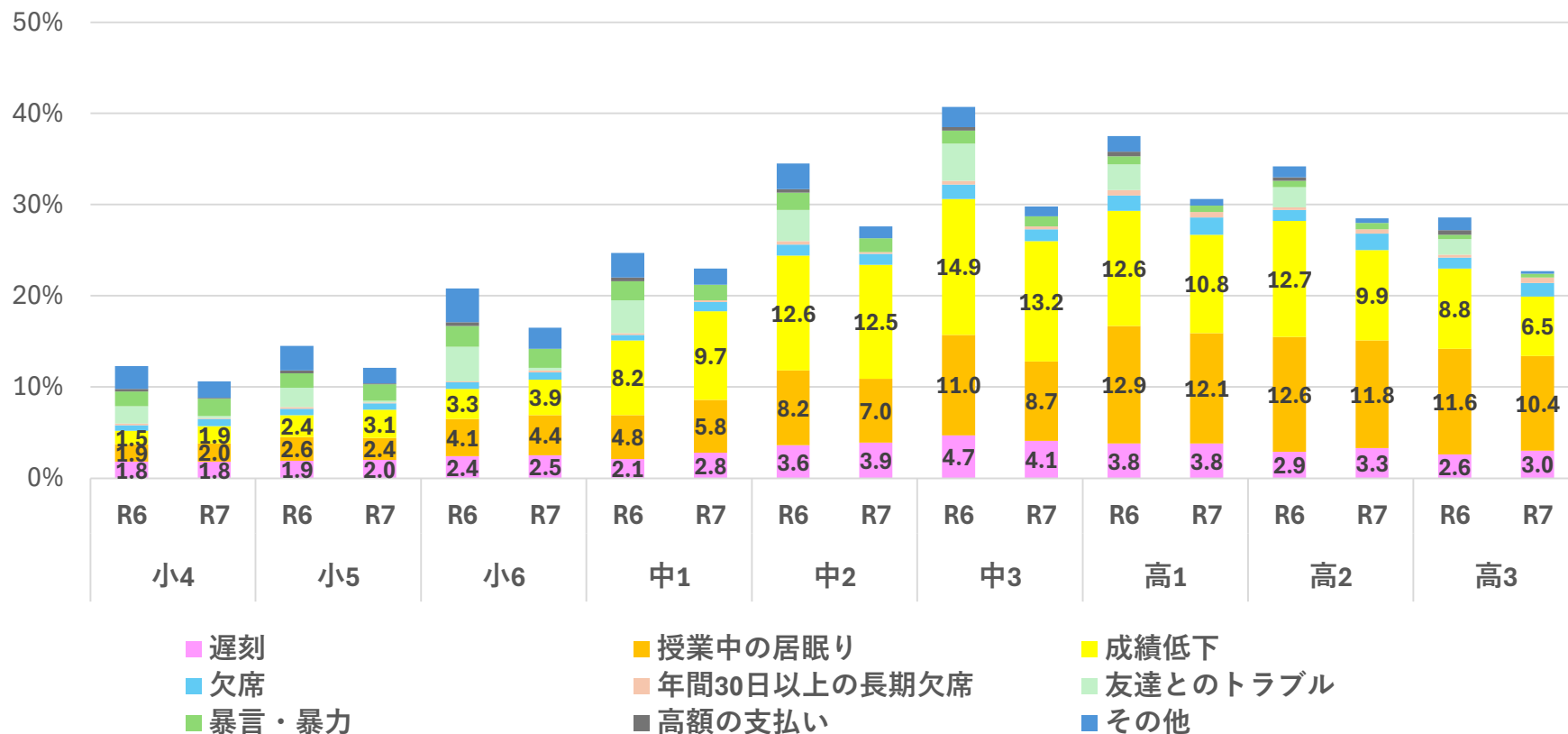
【傾向】

・中・高校生は、「学校でのトラブル」に起因するネットいじめの割合が高い傾向にある。

【指導・啓発のポイント】

○原因不明の被害を受ける危険性と対処方法を指導する。
○学校でのトラブルの延長で、ネットいじめに発展するケースがあることから、日常の学校生活や人間関係について注視し、きめ細かな指導・助言をする。

Q23. 今までに、インターネットを使いすぎて、何か問題を起こしたことがありますか



令和7年度の状況（小学校4～6年）（％）

遅刻	2.1	友達とのトラブル	0.3
授業中の居眠り	3.0	暴言・暴力	2.0
成績低下	3.0	高額支払い	0.1
欠席	0.8	その他	1.9
年間30日以上 の長期欠席	0.2		

令和7年度の状況（中学校）（％）

遅刻	3.6	友達とのトラブル	0.0
授業中の居眠り	7.2	暴言・暴力	1.4
成績低下	11.8	高額支払い	0.0
欠席	1.2	その他	1.4
年間30日以上 の長期欠席	0.3		

令和7年度の状況（高校）（％）

遅刻	5.7	友達とのトラブル	0.0
授業中の居眠り	10.0	暴言・暴力	1.4
成績低下	3.6	高額支払い	0.0
欠席	5.0	その他	0.0
年間30日以上 の長期欠席	2.9		

【傾向】

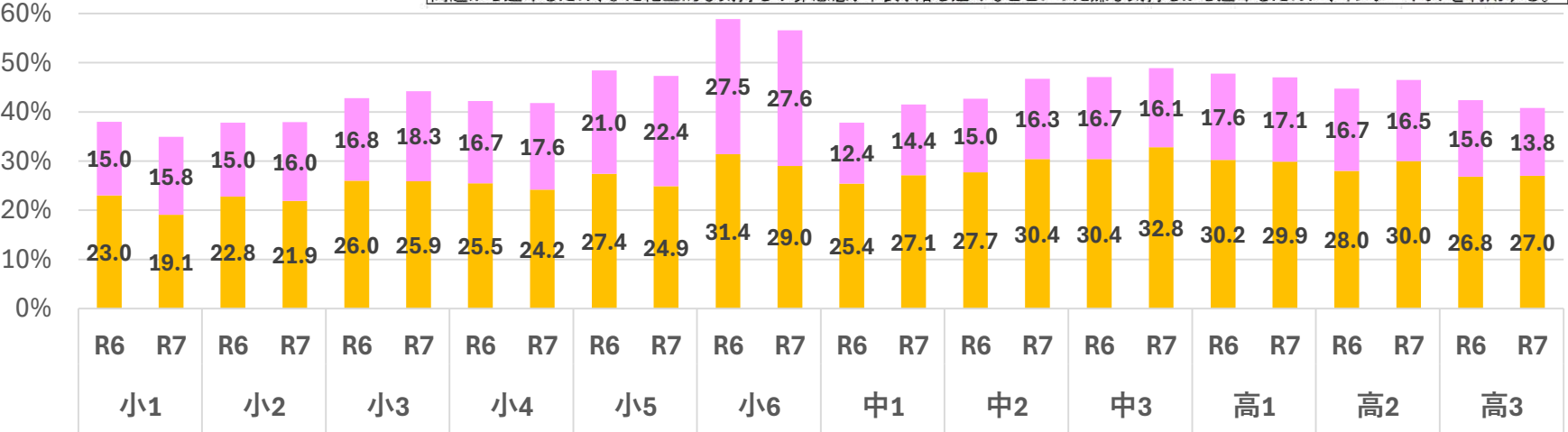
・中・高生は、特に「成績低下」と「授業中の居眠り」が大きな割合を示す。

【指導・啓発のポイント】

○インターネットの長時間利用による、学校生活や日常生活に及ぼす悪影響の大きさを認識させ、丁寧に指導する。

ネット依存傾向について

項 目
インターネットに夢中になっていると感じている。
満足感を得るために、インターネットの使用時間を長くしていかなければならないと感じている。
インターネットの使用を制限したり、完全にやめようとしたりが、うまくいかなかったことがたびたびあった。
インターネットの使用制限や完全にやめようとしたとき、落ち着かなかったり、不機嫌な気持ちや落ち込み、イライラなどを感じた。
使用前に考えていたよりも長い時間インターネットに接続していたことがある。
インターネットが原因で、人間関係や学校、部活動のことを台無しにしたり、危うくしたりするようなことがあった。
インターネットへの熱中のし過ぎを隠すために、家族や学校の先生、その他の人にうそをついたことがある。
問題から逃げるため、また絶望的な気持ちや罪悪感、不安、落ち込みなどといった嫌な気持ちから逃げるために、インターネットを利用する。



■ 上記項目の回答で「はい」と答えた数が、合計5つ以上
■ 上記項目の回答で「はい」と答えた数が、合計3～4つ

校種別経年変化（小学校1～3年）（％）

	R7	R6	R5
5つ以上	16.7	15.6	11.9
3～4つ	22.4	24.0	21.8

校種別経年変化（中学校）（％）

	R7	R6	R5
5つ以上	15.6	14.6	11.1
3～4つ	30.1	27.8	25.9

校種別経年変化（小学校4～6年）（％）

	R7	R6	R5
5つ以上	22.7	21.9	18.2
3～4つ	26.1	28.2	25.0

校種別経年変化（高校）（％）

	R7	R6	R5
5つ以上	15.8	16.6	12.7
3～4つ	29.0	28.4	26.9

【傾向】

- ・どの学年においても、約40％の児童生徒にネット依存の傾向がある。

【指導・啓発のポイント】

- 児童生徒の心身の状態に影響が出ている場合は、医療機関やスクールカウンセラーにつなぐことを検討する必要がある。